

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域協働推進事業)

平成27年1月30日

協議会名：河内長野市地域公共交通会議

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
<p>地域に合った公共交通の試行運行の検討 ⇒【地域において日頃の移動に不便を感じている方々の移動手段の確保に向け、現状を把握し、問題点の整理や解決策の検討を行うことを目的とする勉強会を希望する団体と開催。】</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>今年度は、希望する自治会と勉強会を開催し、地域に合った公共交通の試行運行へ向けた検討を開始。 勉強会での議論では、「まだ先の話」、「バス運行は行政が主体」といった意見が大半を占めた。 今後、地域の意識改革を促すため、根気強く勉強会を開催し、 ・地域の将来のためには、今から準備することが重要であること ・持続可能な地域公共交通にするためには、地域主体で考えることが重要であること など、地域への動機付け・意識付けのための啓発活動等の取り組みに力を入れる。</p>
<p>バス利用の手引き・バスマップの作成、配布 ⇒【携帯性を重視し、昨年度の5枚綴りから1枚に情報を集約したものを50,000部作成し、3月上旬に公共施設、観光施設、バス車内などにて配布予定。】</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施される見込み。</p>	<p>さらなる利用促進に向け、使い勝手の向上のため、提案・掲載希望内容等については、アンケートなどで把握する。その結果を踏まえ、地域公共交通会議で内容、配布先、配布方法等について協議・検討を行い、地域住民・観光客など利用者の視点に立った手引き・マップを作成、配布する。</p>
<p>観光資源と路線バスを活用した取り組みの実施 ⇒【昨年度と同様に企画乗車券(モックルカード・ワイドモックルカード)を周知するため、「河内長野市バス旅ガイド」(チラシ)を20,000部作成し、3月上旬に駅、観光案内所、観光施設、公共施設、自治会回覧などにて配布予定。】</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施される見込み。</p>	<p>より多くの人にバスを利用してもらえるよう、企画乗車券(モックルカード・ワイドモックルカード)提示者への特典協力をしてくれる施設や店舗の拡充を図る。</p>
<p>有料広告を掲載したコミュニティバスの時刻表・ルート図の作成、配布 ⇒【現在作成中のバスマップにコミュニティバスの時刻表・ルートもあわせて掲載する予定。】</p>	<p>B 事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点(有料広告を掲載しなかった)がある。 理由として、路線バスとコミュニティバスの時刻表・ルート図を別々で作るよりも、一緒にした方が乗り継ぎに対応でき、利用者にとってより使いやすいと判断し、バスマップとあわせて作成した結果、スペースと見やすさの関係から掲載を見送った。</p>	<p>バス利用の手引き・バスマップの作成同様、利用者の視点に立った使いやすく便利な時刻表・ルート図の作成を行うよう努めるとともに、有料広告の掲載についても、引き続き検討する。</p>

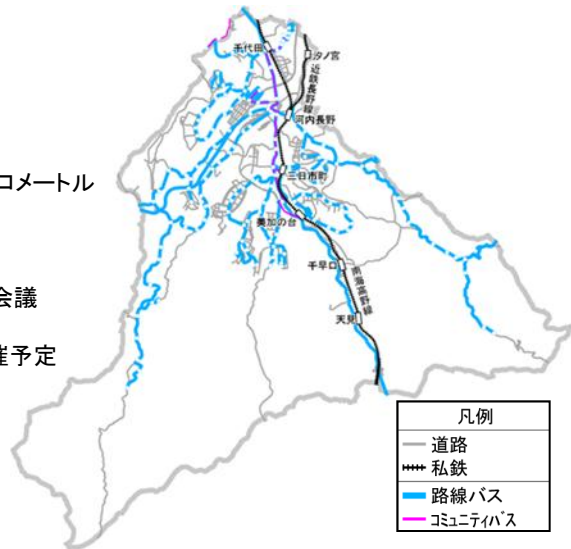
協働推進事業の概要

- 河内長野市における公共交通をとりまく課題
 - ・公共交通利用者数の減少
 - ・公共交通空白・不便地域の存在
 - ・まちづくりとの連携
- 協働推進事業を実施する必要性

持続可能な公共交通を確保するためには、地域の関係者（行政、事業者、住民、地元商業施設等）が協働・連携しながら公共交通の利用促進につながる取り組みを進める必要がある。
- 協働推進事業実施に際しての定量的目標
 - ・現状（平成23年度）のバス利用者数以上を確保
- 事業内容・事業結果
 - ・地域に合った公共交通の試行運行の検討（実施）
 - ・バス利用の手引き・バスマップの作成、配布（実施予定）
 - ・観光資源と路線バスを活用した取り組みの実施（実施予定）
 - ・有料広告を掲載したコミュニティバスの時刻表・ルート図の作成、配布（一部実施予定）

参考資料

- ・河内長野市の概要
 - 【人口】110,975人
 - 【面積】109.61平方キロメートル
 - 【高齢化率】29.6%
 - （平成26年12月末）
- ・河内長野市地域公共交通会議開催状況
 - 【平成26年度】5回開催予定



【河内長野市の公共交通網】

具体的取り組みに対する評価

- 公共交通利用促進の取り組みに対する評価
 - ・公共交通不便地域において、現状を把握し、問題点の整理や解決策の検討を行うことを目的とする勉強会を希望する団体と開催し、地域に合った公共交通の試行運行へ向けた検討を開始した。
 - ・バス路線の認知度向上や利用機会の拡大に繋がる取り組みとして、「河内長野市バスマップ」、「河内長野市バス旅ガイド」（チラシ）を作成し、駅、観光案内所、観光施設、公共施設などに配布予定。
 - ・「河内長野市バスマップ」にて、コミュニティバスの時刻表・ルート図をあわせて掲載することで、路線バスとコミュニティバス等の乗り継ぎに対応し、利用者にとってより使いやすい内容を意識した。

評価から得られた課題、対応

- 実施事業の今後の対応
 - ・勉強会での議論では、「まだ先の話」、「バス運行は行政が主体」といった意見が大半を占めており、今後、地域の意識改革を促すため、根気強く勉強会を開催し、啓発活動等の取り組みに力を入れる。
 - ・バスマップについては、携帯性を重視し、昨年度の5枚綴りから1枚に情報を集約して作成中。さらなる利用促進に向け、提案・掲載希望内容等については、アンケートなどで把握し、地域公共交通会議で協議・検討を行い、地域住民・観光客など利用者の視点に立った手引き・マップを作成、配布する。
 - ・バス旅ガイド（チラシ）については、より多くの人にバスを利用してもらえるよう、企画乗車券（モックルカード・ワイドモックルカード）提示者への特典協力をしてくれる施設や店舗の拡充を図る。
 - ・コミュニティバスの時刻表・ルート図については、バス利用の手引き・バスマップの作成同様、利用者の視点に立った使いやすく便利なものになるよう努める。

アピールポイント（特に工夫した点）

- 「河内長野市バスマップ」
 - ・携帯性を重視し1枚に情報を集約。主要鉄道駅の時刻表をまとめ、住民だけでなく市外からの訪問者にもバスを利用してもらうきっかけになるように配慮した。
 - ・昨年度より観光スポット（寺や公園等）や公共施設等の情報量を増やし、観光マップとしての活用も図った。
- 「河内長野市バス旅ガイド」（チラシ）
 - ・昨年度より路線バス利用者への特典協力をしてくれる施設や店舗を増やした。

生活交通ネットワーク計画への影響

- 「河内長野市バスマップ」及び「河内長野市バス旅ガイド」（チラシ）を配布することにより、公共交通の利用促進を積極的にPRする機会が増えた。